

武雄市文化のまちづくりデザイン会議 会議録

日 時	場 所	出 席	<input type="checkbox"/> 委員（山口夕妃子氏、七田忠昭氏、黒澤伸氏（リモート）、井上俊正氏、田中友子氏、松尾陽輔氏、川副義敦氏、井上祐次氏、中野博之氏、光武英樹氏、綿島康浩氏、鳥谷憲樹氏、稲葉充秋氏、山口祐香氏、諸岡智恵氏） <input type="checkbox"/> 小松市長 <input type="checkbox"/> 松尾教育長 <input type="checkbox"/> 事務局（こども教育部文化課新文化会館整備準備室）
令和3年5月25日（火） 14:00～16:20	武雄市文化会館 ミーティング ホール		
1. 協議件名		第1回 武雄市文化のまちづくりデザイン会議 （テーマ：文化とは何か？）	

議事録

	<p>1. 開会・市長挨拶（進行：山北文化課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも「文化」とは何なのかは大いに話してほしい。その中で新しい発見があるかと思う。 ・文化を軸に、武雄らしさをデザインしながら、まちづくりについて議論してほしい。 <p>2. 委嘱状交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松尾教育長より16名の委員を代表して、山口夕妃子氏に委嘱状を交付。 ・会長、副会長、顧問の選出について 会長 山口夕妃子・佐賀大学芸術地域デザイン学部教授 副会長 七田忠昭・佐賀城本丸歴史館長 顧問 黒澤伸・金沢芸術創造財団 元金沢21世紀美術館副館長 が就任。 <p>3. 議事：テーマ「文化」とは何か？</p> <p>①今後の進め方について ②文化会館・市民文化の森構想について 事務局より説明を行った。</p> <p>③武雄の歴史と文化について 武雄市図書館・歴史資料館 歴史資料専門官である川副義敦委員より武雄の地名、歴史、焼き物、蘭学などについて話をいただく。</p> <p>④ディスカッション</p> <p>〈出席者の意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の考古学の分野からいうと、人類の活動、行動、思い、全てが「文化」であると考えている。武雄においてはこれまでの歴史が培った他にはない素晴らしい文化がある。それを武雄に住む人々が遺伝子レベルで取り入れて継承していくことが重要で、武雄の文化の発展に繋がると考える。 ・まちづくりがひとつづくりであると考えており、「文化」においてもひとつづくりが重要であると考えており、特に若い世代の発想を取り入れて文化を考えていくことが必要だと思う。 ・「緑からのメッセージ」という著書のなかで河合雅雄先生が、猿＝人間には緑が重要であると言われる。武雄の良さは緑＝巨木や里山であり、武雄全体を緑のミュージアム、博物館のようにし、その中核に文化会館があるという構想はどうかと考えている。
--	--

- ・デザイン＝らしさである。らしさをどう表現するか、そのコンセプト作りが重要だと考える。
- ・武雄には 2000 以上の蘭学資料があり、それは武雄が誇る財産だと考える。「蘭学」は武雄の文化を考える上で欠かせない要素だと思う。
- ・文化とは万人が好むものでなく、一部の人にものみ好まれても良いもので、合理的なものでなくてもいい。そこに人間らしさがあると思う。
- ・文化とは、そのまちに住む人々の生活や日常に近いレベルで人々を惹きつけるものであり、人が生み出すものとする。例えば若者と、思いやアイデアを持った地域の人々を繋げて問題解決や新しい発想を生み出すアイデアラボのようなものができ、それが武雄の文化になると良いと思う。
- ・文化＝人々の生活そのものであり、我々を動かす原動力となるものとする。
- ・文化＝らしさとは、マーケティング的には集客力がキーであり、経済的な観点も必要になる。また、なくても良いが、あると人生に彩が加わるものが文化だと思う。食に携わる立場から、人と人、人とモノをつなぐ可能性をもつ食文化は重要であると思う。
- ・文化とは肌で感じるもので、全ては楽しさに繋がってくる。楽しさをキーワードに、文化会館のあり方も含め、まちづくりについても考えていきたい。
- ・産業でもあり地域との繋がりも生み出す食文化は重要なもの。その観点を取り入れながら構想を練っていきたい。
- ・観る、創る、残すという観点が文化（まちづくり）をデザインする上では重要だと考える。それらを担う人づくりが大事。今のような時代だからこそ人の心を動かす新たな文化が必要で、強みになる。それが魅力となり、海外も含めた外からの人の流れも生まれ、経済発展にも繋がると思う。
- ・地域で長い時間をかけて共有された価値観が文化であると思う。我々の生活に無意識下で影響を与えるものではあるが、より快適な人との関わりを目指す上で意識的に変えていくものでもある。だからこそ経済的見地も必要となる。守るべき過去のものや未来に変えていくべきもの、それぞれの価値観を様々な世代で共有していく必要がある。
- ・文化とは幅広いものと捉えており、生活のあらゆる場所に存在するもので、時代、場所、世代によっても変わり、現在さらに多様化し変化が加速している。それぞれの異なる文化をより深めたり高めたりする中で過去や未来が繋がり、人のキャパシティー（可能性）が広がっていく。文化施設は人をアクティベート（活発化）していく手助けをする場所であるべきだと思う。

4. 閉会（進行：山口夕妃子会長）

- ・本日は、武雄市の歴史と文化について、委員の皆さんの文化の考え方について共有ができた。
- ・この会議が武雄市全体の文化そのものどのようにデザインしていくか、新しい何かを生み出していく場となれば。
- ・次世代につなげていくもの、次世代に新しく残していきたいものなどを、今後会議の中で話ができたらと考えている。